

氏 名	井 手 敬 昭
学位の種類	修 士 (看護学)
学位記番号	修 士 第 1 3 9 号
学位授与年月日	平成 2 3 年 3 月 1 0 日
学位論文題目	うつ病患者の精神科個室病棟に対する捉え方

論文内容要旨

※整理番号	144	(ふりがな) 氏名	いで たかあき 井手 敬昭
修士論文題目	うつ病患者の精神科個室病棟に対する捉え方		
<p>目的： 精神科個室病棟に入院しているうつ病患者が個室という環境をどのように活用し、患者自らに与える個室の影響についてどのように認識しているかを明らかにする。</p> <p>方法： 現在精神科個室病棟に入院中のうつ病の患者7名に対し、半構成的面接を実施した。また、面接によるデータの補強を図る目的で、研究対象者が個室をどのように活用しているのかを参加観察した。面接内容に関しては、質的帰納的手順にて分析した。</p> <p>結果： 面接内容の分析より、【自分を取り戻すための避難場所】【洞察を深める場所】【自由で安心できる場所】【孤独を感じる場所】【個室病棟なりの生活のしづらさ】【個室と共用空間の使い分け】の、6つの上位カテゴリーが抽出された。</p> <p>考察： 対象者は、他者との距離をとり一人になって閉じこもることや感情を自由に表出することができる環境を求め、意識的に刺激から避難するように【自分を取り戻すための避難場所】として個室を利用しており、またゆっくりと邪魔されずに一人で自分自身や家族について振り返り、さらに看護師を利用して考えを深めることのできる【洞察を深める場所】として捉え、利用していた。療養する中で基本的な安全と安心が満たされた【自由で安心できる場所】は、刺激から避難することや洞察を深めることを促進させ、治療面と生活面の両方において充実したものとなっていた。しかし、療養環境としての個室を有益なものとして捉えている一方で、一人になることにより【孤独を感じる場所】となったり、個室病棟であっても気遣いが必要となる【個室病棟なりの生活のしづらさ】を感じていた。そのような相反する認識の中でも、【個室と共用空間の使い分け】をしながら適度に調整し、また自分自身の症状や行動をコントロールし、治療と生活のバランスをとりながら療養することができる場所として個室を捉えていた。</p> <p>総括： 精神科個室病棟に勤務する看護師は、プライバシーが確保され誰からも干渉を受けない自由な環境を提供し、患者が一人であることができること、そして安心して自由に生活ができることを保障していく必要がある。しかし、一人であることは、一方では孤独感や他者への気遣いを助長させてしまう結果にもなっているため、対人交流の調整を心がけていくことが大切である。その際には、患者の背景や症状、そして病期を見きわめるための看護師のアセスメント能力が重要となってくる。しかし、すべてを看護師が担うことはなく、患者自身の自己コントロールを促し補強できるように支持的に関わっていくことが重要であると考えられる。入院環境は治療の場であると同時に生活の場でもあるため、入院して療養生活を送っている患者は“生活者”であるという視点を忘れずに関わっていくことが必要である。</p>			

- (備考) 1. 研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。(1200字程度)
2. ※印の欄には記入しないこと。